

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	3670400229
法人名	有限会社 中川開発
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 阿南向日葵
所在地	徳島県阿南市日開野町筒路10-1 (電話) 0884-24-3636

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 16 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤10人, 非常勤10人, 常勤換算1階6.98人, 2階8.48人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	その他実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		- 円

(4) 利用者の概要(平成 20年 11 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.65 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島内科眼科医院 岩浅歯科医院 宮本病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は近くに量販店や喫茶店、図書館や市民会館などが立ち並ぶ市街地に位置し、それらの社会資源を有効に活用した外出支援や楽しみづくりを日常的に行っている。管理者は職員一人ひとりの資質の向上に熱心に取り組み、県外を含む外部研修や内部での研修を繰り返し実施している。またホームの生活の様々な場面を写真に収め、メッセージを付けた「ホームだより」を作成し、家族に送付して利用者の暮らしぶりを伝えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題である「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」、「災害対策」については改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を理解して評価項目ごとに吟味し、現状を振り返りながら丁寧に取り組んでいる。ユニットごとのリーダーが職員の意見を聞き取り、リーダーは皆の意見を集約して管理者に伝え、管理者を中心に十分な話し合いを持って作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は過去1年間で1度開催し、事業所側からの報告や家族の意見要望等について話し合われている。参加メンバーに市の担当者または地域包括支援センター職員の参加が得られていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪が多く、職員との間に親しい関係が築かれているため、互いによく話し合いがなされている。家族から意見や要望が出た時には職員間で検討し、迅速な対応をしている。またその内容は、記録保存されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所周辺のスーパーや喫茶店によく出向き、顔馴染みの関係が築かれている。毎週開かれる青空市や市民会館の催し物にも出かけ、多くの人と触れ合う機会を持っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員は、事業所の理念である「自分に厳しく、一瞬の可能性を大切にしたい、より良い馴染みの関係を目指して」を開業当初から実践しており、利用者が生まれ育った馴染みのある地域で穏やかな老後を過ごせることを目指したケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎朝の申し送り時に全員で唱和して、共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、周辺にスーパーや喫茶店など多くの店舗が立ち並び、利用者は日常的に外出をして、顔馴染みの関係が築かれている。毎週開かれる青空市や市民会館の催し物、図書館などにも出かけ、多くの人と触れ合う機会を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、全職員で意見を出し合って自己評価に取り組まれている。また外部評価結果については、職員間で話し合いが持たれているが、具体的な改善への取り組みには至っていない。	○	外部評価によって見出された課題について、計画的に改善へ向けて取り組んでいかれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去1年間で1度開催し、事業所側からの報告や家族の意見要望等について話し合われている。参加メンバーに、市の担当者または地域包括支援センター職員の参加が得られていない。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。また市の担当者または地域包括支援センター職員の参加についても協力が得られるよう働きかけられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連携が取りがたく、事業所としても今後の課題としてとらえている。	○	運営推進会議への参加も含め、機会を見つけて事業所の考え方や実情を伝え、市町村との連携に取り組まれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの日々の暮らしをアルバムにまとめ、家族に送付したり来訪時に見せたりして、様子をこまめに伝えている。ホーム内での行事や利用者の生活ぶりを豊富に掲載したホーム便りも作成し、日頃来訪できない遠くに住む家族にも送付している。金銭出納簿は記録して領収書を家族に送付しているが、確認印・サインがない。	○	金銭出納簿には家族が確認したことがわかる確認印・サインをもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会を開催した折に、希望や意見を聞くことに努めている。要望が出た時には記録し、解決できることは迅速に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が短期間で離職した事例はあるが、馴染みの職員は固定し、利用者の気持ちに配慮した対応がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員研修を重要に受け止め、県内外の研修に多人数で積極的に参加している。研修を受けた職員は内容を文書にまとめて回覧するほか、全職員で勉強会を開き、資質の向上に努めている。しかし、研修計画は作成していない。	○	これまでの取り組みに加え、さらに、年間計画を作成して計画的に参加することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者のネットワークを利用して同業者との交流が図られている。グループホーム協会に加入し、相互評価事業にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時には、本人や家族の不安を取り除くよう配慮している。病院からの急な利用というケースもあり、それぞれに合った個別の対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや畑仕事を共に行うなど、利用者を尊重して一人ひとりの思いを大切にしながら理念にある「馴染みの関係」を築き、共に暮らしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者によく声をかけ、互いに穏やかな会話が交わされている。職員は利用者の表情や態度から意向を汲み取り、本人を大切にケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ミーティング時に出された日々の気づきや本人の要望、毎月のカンファレンスで明らかにされた事柄、また家族や関係者からの意見などを反映した利用者主体の計画書となっている。本人や家族の確認印・サインもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて定期的に、また利用者に変化があったときには随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、24時間看護師の対応ができる体制にある。また、墓参りなどの外出支援や病院への通院支援など、本人の希望にそった対応が柔軟になされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には同意を得て、協力医療機関での受診が中心となっている。本人や家族の希望があれば、以前からのかかりつけ医等の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、職員間で話し合われることはあるが、家族や医師、関係者を交えた話し合いがなされてなく、全員で方針を共有できていない。	○	本人や家族、医師、関係者が終末期のあり方について話し合い、全員が具体的な方針を共有できるよう取り組んでいくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程や契約書に秘密の保持に関する規定を定め、職員採用時には説明して徹底されている。入浴や排泄時には、利用者の誇りやプライバシーに配慮した支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自身の希望を優先した暮らしを実践している。煙草やおやつを買いに行ったり、喫茶店に行ったり、利用者自身が「したいと望むこと」を叶える対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者もできることを見つけて食事作りに参加し、楽しみながら食事をしている。一人ひとりの嗜好を把握して、食べられない副食などは、代替のものを用意するなどの配慮もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人が希望すればいつでも入浴することができる。入浴時間も利用者の希望にそって、午前中や夜間も対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の場面では、利用者が下ごしらえや配膳、食卓の準備を楽しみながら手伝っている。時には皆で外で食事をしたり、庭で育てた芋掘りをして近所におすそ分けに行ったり、誕生会では利用者自身が主体的に参加した出し物を企画するなど、日々の生活に楽しみ事をたくさん作り出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見学に行ったり、海岸へドライブに出かけたり、歌謡ショーに行くなど、四季折々の外出支援が行われている。日常的には早朝ウォーキングや体操、またスーパーへの買い物、青空市へ出かけるなどホームに閉じこもらない支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム横の道路は車の交通量が多いが、安全面に配慮するなど、日中、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回の訓練を実施しているが、災害時の地域の協力について働きかけがなされていない。	○	日頃から地域に理解を得られるよう働きかけ、災害時の協力体制を築いておかれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分摂取量を記録して利用者一人ひとりの状態を把握し、適切な支援を行っている。専門的観点からのチェックも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターで育てた花を飾り、居間にも季節の花や写真を飾っている。清潔感があるゆったりとくつろげる空間をつくっており、家庭的な雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者一人ひとりの好みのもを持ち込んでいる。写真や人形など、自分の馴染みのものや家族からの贈り物を置いて、居心地よく過ごせる居室をつくっている。		